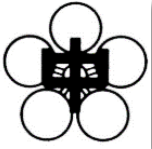


<校訓>白梅の においゆたかに 明るく強く 毎日必ず 一歩前進



輝く未来へ

教育目標「自ら学び 創造する生徒」「豊かな心で 思いやりのある生徒」「ねばり強く 健康な生徒」

板橋区立加賀中学校
学校だより
令和2年度 第 4号
令和2年 5月 25日
校長 水谷 智子

新型コロナウイルスと共に生きる社会へ

緊急事態宣言の解除が視野に入ってきて、学校再開が待たれるところです。しかし、新型コロナウイルスが地球上から駆逐されたというわけではありません。これから「新型コロナウイルスと共存する新たな日常」が始まるということです。新たな日常の中で、どのような教育活動ができるのか、その可能性を探りながら、「今できる」「今だからこそできる」ことを進めていきたいと思っています。

「科学的な見方・考え方」からすると、生物の進化の過程においては、ウイルスとの共生はよくあることです。ウイルスは『生物と無生物の間』にある存在として位置づけられ、宿主がなければ生きられません。ウイルスは宿主の体の中で増殖し、宿主が死んでしまえばウイルスも生きられず、共倒れになります。また、ウイルスはそれ自体が動くことはできません。宿主とともに移動することで拡散していきます。今回の新型コロナウイルスは、経済活動を行う『ヒト』を宿主としているので、いろいろと厄介なことがでてきていますが、別にウイルス自体が悪というわけではありません。大昔から、ヒトもウイルスも共にいて、ウイルスと共存することができた者だけが生き延びてきたわけですから……。

“ウイルスとの戦い”という表現は、西洋的な「人間は自然を支配する」という考えに基づくものですが、東洋には「人間は自然と共存する」という思想があります。民族によって、宗教が違えば価値観も違います。戦って一方が他方を屈服させて終わるのか、争わずに棲み分けによって共存共栄を図るのか、人によっても国によっても考え方は違うでしょう。ウイルスとヒトとの関係においては、ヒトはウイルスを完全に征服することは難しいかもしれません。ウイルスは増殖する際に『変異』します。変異は遺伝子のコピーミスによって一定の割合で起こりますから、薬やワクチンができたとしても万全というわけではありません。ですから、今後もこの新型コロナウイルスは形を変えながら存在していくでしょう。ならば、私達人間は「ウイルスと共存する生活」について考えていかなければなりません。

「ウイルスと共存する生活」とは、「自分がウイルスをもっているかもしれない」という前提で生活する」ということです。このウイルスは不顕性感染（ウイルスをもっているも発症せず、自分では気づかない）が多いのではないかとされています。マスクをするのも3つの密を避けるのも、「他の人にうつすかもしれないリスクを下げる」ためです。自分の欲求のままに行動するのではなく、「人に迷惑をかけない」「周りの人を大切にする」という思いやりの気持ちをどれだけ持てるのでしょうか？ そして、集団として、そのような気持ちが持てる人がどれくらいいるのでしょうか？ しかし、暑い時期にマスクを着けているのは大変です。外してよいのか、着けていなければならないのか、それは周りの環境によって変わるものです。「なぜ？」「何のために？」を考え、適切に判断し、自らを律して行動する力が試されているといえるでしょう。

ウイルスと共存する社会は、私達の知性や勇気が問われる社会です。決まった正解があるわけではありません。医療、経済、教育、福祉など、様々な分野の「都合」を総合的に捉え、どうバランスをとって、持続可能な社会を創っていくのか、これからの私達の生き方を真剣に考える時です。ウイルスも、私達人間を含むすべての生物たちも、皆が『宇宙船地球号』の乗組員、運命共同体なのですから……。

◎学習支援日

5月18日から、週1回の学習支援日が設けられました。以前より、週1回の電話連絡日や書類配布日が行われていましたので、それを拡充し、書類や課題の回収や配布、注意事項等の伝達、生徒からの相談や質問の受付を行い、希望する生徒は家庭学習プログラムを進めるという形で実施しました。

当日はほとんどの生徒が参加しました。7年(中1)生は、初めて上履きに履き替えて、校舎内に入り、自分の教室や座席を確認し、担任の先生としっかり顔を合わせる時間になりました。クラスを4つに分けての時差登校だったので、教室の中には、6人から多くても10人しかおらず、まだ、『自分のクラス』を実感できる状態ではありません。生徒間の距離も離れていて、生徒同士でおしゃべりする雰囲気もなく静かでした。初めて顔を合わせるクラスメイトばかりで、緊張している様子が伝わってきました。



けれども、9年(中3)生の女子ともなると、雰囲気は一変。久しぶりに友達と会えた嬉しさから、何人かで楽しそうに話をする場面も見られました。「密にならないように！」と周りの教員たちはヒヤヒヤしながら見守っていましたが、生徒たちの気持ちはよくわかります。一人で家庭学習を進めていても、学習や進路、行事など、先の見通しが持てないことへの不安は、きっと大きいことでしょう。そんな中で、短い時間でも友達や先生方と顔を合わせて話ができ、少しホッとして、「また頑張ろう！」という気持ちになったのではないのでしょうか？



今週も学習支援日が設けられます。「学校再開に向けての準備」という意味合いもありますので、生活リズムを取り戻す機会にしてください。

◎第一回CS(コミュニティ・スクール)委員会

今年度より『iCS』が始まりました。(詳細は先週お配りしたリーフレットを御覧ください)『地域とともにある学校』をめざし、地域の方々と共に、より良い加賀中づくりを進めていこうと

しているところですが、新型コロナウイルスの影響により、現在は、通常通りのCS委員会が開催できません。そこで、第一回のCS委員会は紙面開催にし、本校の学校経営方針、学校支援地域本部の活動方針、新型コロナウイルスに対する対応等についてお知らせし、委員の方々からご意見をいただく形で実施いたしました。

今年度より、CS委員長が地域委員の中から選出されることになり、委員の構成についても一部変更になりました。CS委員会の組織については以下のとおりです。保護者や地域の皆様にも、『iCS』に対するご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和2年度 加賀中学校CS委員会組織

(敬称略)

委員長	学校支援地域本部コーディネーター・同窓会長	平澤 信彦
副委員長	学校支援地域本部コーディネーター	浅利 昌利子
"	加賀中学校長	水谷 智子
地域委員	稲荷台自治会長・前同窓会長	高田 雄彬
"	加賀中学校PTA会長	藤原 康俊
"	金沢小学校PTA会長	小幡 健太郎
"	加賀小学校PTA副会長	真山 岳士
"	加賀五四自治会防災部長	樋口 雅人
"	青少年委員	齊藤 勝
行政委員	金沢小学校長	赤木 勲
"	加賀小学校長	齋藤 一裕
"	氷川児童館長	金子 圭子
学校	加賀中学校副校長	上村 諭
事務局	加賀中学校事務主事	佐瀬 美知子
"	加賀中学校主幹教諭	菅野 秀一

なお、この委員会に先立ち、学校支援地域本部の活動方針についての打ち合わせを行いました。通常は月1回程度校長室で行っていますが、今回はテレビ会議にて実施しました。「できることからやっつけていこう」ということで、まずは、英検応援講座のビデオ配信を予定しています。準備が整いましたらご案内しますので、生徒・保護者の皆様のご活用をお願いします。

学校再開が待ち遠しいですね。私かがもんにもビデオ出演のオファーがあり、嬉しかったです！動画はご覧いただけましたか？皆さんにお会いできる日を楽しみにしています！！



Kaga junior high school
60th Anniversary